

川嶋氏(日赤看護大名誉教授)看護を語る

亀田医療大で学生や市民聴講

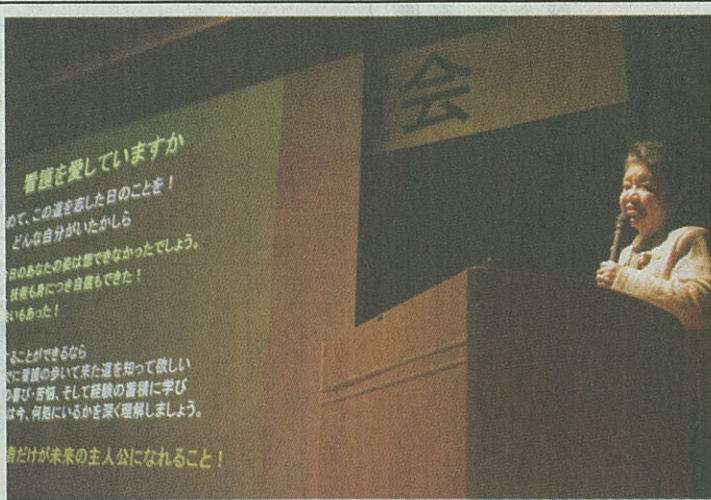
日本赤十字看護大学名誉教授、川嶋みどり氏の講演会「看護の過去・現在・未来」今あらためて看護を語る―(亀田医療大学、安房医療ねっと共催)が15日、鴨川市の亀田医療大学学生会館ミスキホールで開催された。一般へも公開され、同大学の学生ら74人のほか、一般市民50人の合

わけて324人が参加した。川嶋氏は、日本看護歴史学会理事長で、看護の歴史に詳しく、1965年から東京看護学セミナー代表世話人として看護の基礎教育などの講師をしながら執筆や講演活動している。「戦争反対」のメッセージを発信する南房総市の「花の谷クリ

ニック」敷地内に開設された「スーパのよろずや」が企画。関連イベントとして、映画上映会や貴重な戦争写真のパネル展示、安房地域の医療機関でつくる安房医療ねっとの例会でも、川嶋氏が「戦争と医療」をテーマに語った。

講演会で川嶋氏は、63年にわたる看護の経験を踏まえ、ヨーロッパの看護の歴史から看護の役割までを語った。また、ナイチンゲールが活躍したクリミア戦争を例にあげ、「戦争が起こったら学ぶこともできず、尊厳ある生の基本は平和があつてこそ」など、生命と人権尊重について述べた。

また、川嶋氏は「最近看護が直に患者へふれることが少なくなってきた」として、実際に患者の皮膚へ意識的に触れ、手当てすることの大切さを力説。学生らには「困難があってもチャレンジする価値ある仕事」とエールを送った。学生を代表して3年生の久坂真之さん(20)が、「命の積極的肯定を深く心に刻みました」とお礼を述べ、記念品を手渡した。館山市の歯科医療施設に勤務する30代看護師からは、「手当てするときの、手のぬくもりの大切さを知りました」といった声も聞かれた。



講演する川嶋氏＝亀田医療大で

没後100年にあたる2010年に、制作に賛同した看護関係者らの寄付でつくられた映画です」などと紹介があった。この後、2回目の講演となる安房医療ねっと例会にも、多くの医療関係者らに参加し川嶋氏の話に聞き入った。